

文化の風が吹くまち ちくしの
文化薫道

問い合わせ先／文化財課

一其の三十九

古代の名残を感じる地

湯大道

旧市役所庁舎の周辺には「湯大道」という小字地名が残っています。現在は公園の名前としてのみ用いられていますが、その由来はどのような意味を持っているのでしょうか。

古代の日本には、官道と呼ばれる、国による計画的な道路が造られています。全国の官道が通っていたと考えられる場所には「大道」や「大路」といった地名が残されていることがあります。

からは次田温泉

との関わりがうかがわれます。

平安時代の歌集『梁塵秘抄(りょうじんひしよ)』によると、

大宰府の官人なども入湯していたとされます。

また、二日市温泉の北には、大宰府政庁を中核とする条坊制を持つ都城があり、その中央には大路(通称・朱雀大路)が走っていました。「湯大道」の脇には、朱雀大路の南延長線上に延び、温泉へとつなが



官道と湯大道 (昭和33年地形図 二日市周辺)

る官道が走っていたと想定されています。

「湯大道」は、古くから歌にも詠まれる名湯・次田温泉の知名度と、古代官道の名残とを掛け合わせた、この地ならではの地名と言えるのではないのでしょうか。

